今昔物語 第73話

市制施行50周年記念

# 合併から50年 市名と市章の由来について

昭和31年4月1日、2町1村が合併して、新市がスタートしました。新しい市の名前をどうするか、将来の発展と本市の位置がすぐにイメージ出来るような名前がよいということで、「大東市」に決まりました。

市名の由来については、第1回大東市統計書（昭和46年版）に次のように記されています。「大東市を形成する南郷村、住道町、四条町は風致の優れた生駒山麓にあって、古来より浪速の都の東の要衝にあたり従って史蹟に富み有名な飯盛山、野崎観音も管内にあり、特に大都市大阪市と境界を接し、しかもその東方に位するをもって大阪市の東に位置する新興衛星都市を直観、明確に表示し、しかも『光は東方より』という将来の発展を偶して新市名を大東市と定められたのである」。

市章は公募により、747件の応募の中から「大とう」の文字を図化した現在の市章が選ばれました。

ちなみに市の木は「さんごじゅ」で、秋には実が赤く熟し、まるで珊瑚のように見えることからこう呼ばれています。この木の特徴は、水分を多く含んでいるため、家の生垣など防火樹としてよく植えられており、まちを美しく飾り、守る木として親しまれています。市の花である「菊」と共に昭和46年10月に制定されています。

今昔物語 第74話

市制施行50周年記念

# 合併から50年③ 合併前の大東

昭和31年に市としてスタートした大東市ですが、ここで合併前の2町1村の歴史を簡単に振り返ります。

明治時代に入ると、社寺領や大名領以外の江戸幕府の領地は新政府に没収されます。本市域のうち大和郡山藩領の野崎、寺川、中垣内、龍間の4ヶ村、京都泉涌寺領の深野北新田は没収を免れますが、これらも明治4年の廃藩置県により明治政府の管理下に置かれます。その後、明治14年に堺県より大阪府へ編入され、明治22年の町村制施行により、住道村、南郷村、四條村（四条村と書くようになるのは戦後のこと）が誕生し、大東市の前身であるそれぞれの村が誕生しました。

各村の成り立ちは以下のとおりです。

住道村は灰塚村、御供田村、中村新田、横山新田、三箇村、尼崎新田、尼崎新々田が集まって誕生しました。村名は横山新田にある小字名の角之堂（すみのどう）に由来すると言われています。横山新田はほぼ現在の浜町に当たります。昭和12年に住道町となりました。

南郷村は諸福村、新田村、赤井村、氷野村、太子田村、御領村が集まって誕生しました。昔から門真地域も含めて当地域のことを「河内八ヶ所」と呼んでいたことから、八ヶ所の南の郷（さと）という意味から村名に「南郷」と付けられたようです。

四條村は北条村、野崎村、寺川村、中垣内村、龍間村、深野南新田、深野新田、深野北新田が集まって誕生しました。「四条」は、古代土地区画制の条里制で、この地域の一部が四条に当たることから付けられたようです。四条町となったのは戦後の昭和27年のことです。